

平成28年度 リスク評価(一次)評価 I で用いた人健康影響のデータ

(平成28年12月27日)

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性						発がん性		
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考
3	n-ヘキサン	良分解性	4		4												0.26	旧二監(化管 法)								EPA:I(2005)		化管法由 来
5	イソブレン	難分解性	2				2																			産衛学会:2B IARC:2B EU:2 NTP:R		化管法由 来
6	クロロメタン (別名塩化メチル)	難分解性	2	4		2	2				0.4	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3		化管法由 来	
8	クロロホルム	難分解性	2			外	2												(-)	(-)					産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986)・ L(1999)・NL(1999) EU:3 NTP:R			
9	ブロモメタン (別名臭化メチル)	難分解性	2	2		2					0.0019	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来	
10	クロロエタン	難分解性	2	外		2	2				2.7	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3		化管法由 来	
11	1, 2-ジクロロエタン	難分解性	2			外	2												弱い(+)	弱い(+)					産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R			
14	1, 3-ジクロロプロペン (別名D-D)	難分解性	2	2		2	2				0.0008	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986)・ K/L(1996) NTP:R		化管法由 来	
15	メチルアミン	難分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1			化管法由 来	
16	ジメチルアミン	難分解性	2	2							0.0024	旧二監(化管 法)															化管法由 来	
17	テトラメチルアンモニウム＝ヒドロキシド	良分解性	2	2		外		5	6	10		6000	0.00083						(-)	(-)							(-)	
18	ニトロメタン	難分解性	2				2																		産衛学会:2B IARC:2B NTP:R		化管法由 来	
20	1, 2-エポキシプロパン(別名酸化プロピレン)	良分解性	2	2		2	2				0.0012	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R		化管法由 来	
21	1, 2-エポキシブタン	良分解性	2	3			2				0.019	旧二監(化管 法)													産衛学会:2B IARC:2B EU:3		化管法由 来	

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性						発がん性			備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考	
22	エピクロロヒドリン	良分解性	2	3		2	2						0.0076	旧二監(化管 法)											化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R		化管法由 来	
23	エチレングリコールモノメチルエーテル	良分解性	2		3	2												0.031	旧二監(化管 法)						化管法変異原性 クラス1			化管法由 来	
24	2-(1-メチルエトキシ)エタノール	難分解性	2	2	4	外		30	6	10		6000	0.005		125	10		1000	0.125		(-)	(-)							
26	アセトアルデヒド	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:3 NTP:R		化管法由 来		
28	酢酸ビニル	良分解性	2	4		2	2						0.2	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来		
31	アクリル酸メチル	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来		
32	アクリル酸エチル	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来		
34	アクリルアミド	良分解性	2	3	3	2	2						0.005	旧二監(化管 法)					0.015	旧二監(化管 法)					化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:L(2005) EU:2 NTP:R		化管法由 来	
35	メタクリル酸	良分解性	2	2									0.00025	旧二監(化管 法)														化管法由 来	
36	エチレンジアミン四酢酸	難分解性	2	4		2							0.08	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1				化管法由 来	
37	ニトリロ三酢酸	難分解性	2	4			2						0.08	旧二監(化管 法)											IARC:2B NTP:R		化管法由 来		
38	アセトニトリル	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1	EPA:D(1986)・ CBD(1996)		化管法由 来		
40	チオ尿素	難分解性	2		3	2	2												0.035	旧二監(化管 法)					化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:3 EU:3 NTP:R		化管法由 来	
43	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	良分解性	2	2									0.00004	旧二監(化管 法)											IARC:3		化管法由 来		
46	トルエン	良分解性	2		外	2													1.4	旧二監(化管 法)					化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:I(2005)		化管法由 来	
47	スチレン	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B NTP:R		化管法由 来		
48	イソプロベニルベンゼン (別名 α-メチルスチレン)	難分解性	2		4	2	2								200	1	10	1000	0.2	厚生省(既存 点検)					化管法変異原性 クラス1	IARC:2B		化管法由 来	

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性							発がん性			備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考		
50	エチルベンゼン	良分解性	2				2																			産衛学会:2B IARC:2B EPA:D(1986)		化管法由 来		
51	ベンジル＝クロリド (別名塩化ベンジル)	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2		化管法由 来			
52	o-ジクロロベンゼン	難分解性	2	4		2					0.24	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来			
53	p-ジクロロベンゼン	難分解性	2	3	4	2	2				0.03	旧二監(化管 法)	250	1	10	1000	0.25	環境省:化学 物質の環境リ スク評価						化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EU:3 NTP:R		化管法由 来			
55	m-フェニレンジアミン	難分解性	2	2							0.0004	旧二監(化管 法)													IARC:3		化管法由 来			
56	o-フェニレンジアミン	難分解性	2	2		2	2				0.0004	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	EU:3		化管法由 来			
58	o-クロロアニリン	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1			化管法由 来			
59	ニトロベンゼン	良分解性	2	3	3	外	2				0.02	旧二監(化管 法)						0.0075	化管法由来	(-)	(-)			有害性評価書 (2008)	産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R		化管法由 来			
60	p-クロロニトロベンゼン	良分解性	2	2		2	2				0.0026	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3		化管法由 来			
62	フェノール	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ I(1999)		化管法由 来			
65	ピロカテコール (別名カテコール)	良分解性	2			2	2																	化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来			
66	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	良分解性	2	2	3		2				0.0024	旧二監(化管 法)						0.014	化管法由来						産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) NTP:R		化管法由 来			
67	テレフタル酸ジメチル	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1			化管法由 来			
68	テレフタル酸	良分解性	2	2							0.000073	旧二監(化管 法)																化管法由 来		
69	1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸1, 2-無水物	良分解性	2	2							0.00016	旧二監(化管 法)																化管法由 来		
70	オクタデシルアミン(N-B)トリフェニルボラン	難分解性	2	2		外		3	6		10	6000	0.0005							(-)	擬陽性									
74	メチレンビス(4, 1-フェニレン)＝ジイソシアネート	難分解性	2	2		4	2						0.000031	旧二監(化管 法)						(-)	(+)	MLA(+)	(-)	EU-RAR、MAK	IARC:3 EPA:D(1986)・ OBD(1996) EU:3		化管法由 来			

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性						発がん性			備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考	
76	ナフタレン	難分解性	2	3			2						0.037	旧二監(化管 法)												IARC:2B EPA:C(1986)・ CBD(1996) EU:3 NTP:R		化管法由 来	
78	3, 3′-ジクロロベンジジン	難分解性	2			2	2													強い(+)						産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R			
79	ビシクロ[2, 2, 1]ヘプタン-2, 5(又は2, 6)-ジイル＝ ジシアニドの混合物	難分解性	2	2		外		1	6	10	10	60000	0.000016							(-)	(-)								
80	1, 4-ジオキサン	難分解性	2				2													(-)						産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R			
81	モルホリン	難分解性	2	3		2							0.0085	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	IARC:3		化管法由 来		
82	ε-カプロラクタム	良分解性	2			2	外																	化管法変異原性 クラス1	IARC:4		化管法由 来		
83	ピリジン-トリフェニルボラン(1/1)	難分解性	2	2		外		1	6			600	0.0017							(-)	(-)								
84	ビス(2-スルフィドピリジン-1-オラト)銅	難分解性	2	2		外		2.5	6			600	0.0041							(-)	(-)								
85	ジカリウム＝ピベラジン-1, 4-ビス(カルボジチオア- ート) ^{※1}	難分解性	2	3	2	2							0.012	ACGIH(2009 年版)TLV- TWA 1ppmよ り換算	25	10	10	10000	0.0025		(+)			化管法変異原性 クラス1					
87	4, 4′-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3- エポキシプロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂) (液状のものに限る。)	難分解性	2			2 ^{※2}																		化管法変異原性 クラス1	IARC:3		化管法由 来		
90	メタノール	良分解性	2	2		外		2		10		1000	0.002	HPV						(-)	(-)	MLA, mitoticre- combinati- onassay inAspergil- lus(+), MLA, CTA, DNA損傷 修復試験、 酵母試験(-)	(-)	cytogenic ityassays, ショウジョ ウバエ伴 性致死試験(-)	HPV				
91	ジエタノールアミン	良分解性	2	2		外	2	0.4	2			200	0.002	HPV						(-)	(-)	哺乳類細胞突然変異試験(-)	(-)		HPV	ACGIH:A3 IARC:2B			
92	過酢酸	良分解性	2	2		外		0.75	2			200	0.0038	HPV						(-)	細胞毒性の濃 度でのみ(+)		(-)	UDS陰性	HPV				
93	無水酢酸	良分解性	2	2		外		0.56	2			200	0.0028	HPV						(-)			(-)		HPV				
94	アクリル酸	良分解性	3	3		外		4.5	2			200	0.023	HPV						(-)	(+)	HPRT(-))、MLA(+)	(-)		HPV	IARC:3			
95	クロロ酢酸ナトリウム	良分解性	2	2				15	2	10	10	20000	0.00075																
97	ヒドロキシルアミン	難分解性 (デフォルト)	2	2			2																			EU:3			
99	N, N-ジメチルプロパン-1, 3-ジイルジアミン	難分解性 (デフォルト)	3	3		外		50	6			600	0.083	SIDS							(-)			(-)	SIDS				
102	プロパン-2-オール (イソプロピルアルコール)	良分解性	4	4		外		33.2	2			200	0.17	ACGIH							(-)		Hprt(-)	(-)	染色体(+)	MOE, FSC, NTP, EHC, SIDS, ACGIH, Patty, PRED SIDS, FSCで陰性 と結論	ACGIH:A4 IARC:3		

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性						発がん性			備考	
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考		
103	1－オクタノール	良分解性	2			2																		化管法変異原性 クラス1			化管法由 来			
105	エチレングリコール	良分解性	3	3		外		1.08	2			200	0.0054	Patty							(-)	(-)	MLA(-)	(-)	DLRL(-)	SIDS, Patty, NTP	ACGIH:A4			
106	プロパン－1, 2－ジオール	良分解性	3	3		外		46	1	10		1000	0.046	PRED							(-)	(±)	酵母(+), 小核(-)	(-)	Drosophil a (-), マ ウス優性 致死(-)	SIDS, JECFA, NTP, PRED, Patty				
107	2－アミノエタノール	良分解性	2	2		外		8.91	6	10		6000	0.0015	環境省:化学 物質の環境リ スク評価							(-)	(-)	遺伝子変 換(-), SCE(-), 形質転換 (-)	(-)		NITE,環境省、 DFG, Patty, NTP				
108	トリエタノールアミン	難分解性	2	2		外		2.65	6	1		600	0.0044	SIDS							(-)	(-)		(-)	DLRL(-)	SIDS, Patty, NTP, Dat	IARC:3			
109	2－ブトキシエタノール	良分解性	2	2		外	2	8.891	2	10		2000	0.0044	環境省:化学 物質の環境リ スク評価							(±)	(-)	UDS(±), SCE(±), ほ乳類細 胞変異原 (-)	(-) (±)	DNA付加 体(-), fivb/n TG マウス(-)	SIDS, IPCS, IRIS, ACGIH, NTP, CEPA, NICNAS 一部に陽性だが、 大勢は陰性。	IARC:3 EPA(2005):NL ACGIH:A3			
110	2－(2－エトキシエトキシ)エタノール	良分解性 (類推審 議)	3	3		外		11.93	6	1		600	0.02	Patty's Toxicology (5th ed.)							(-) (±)			(-)		SIDS, NTP, JECFA, Patty 一部ambiguousは あるが、大勢は陰 性				
111	イソブチルアルデヒド	良分解性	2			2																			化管法変異原性 クラス1			化管法由 来		
112	グリオキサール	良分解性	2			2																			化管法変異原性 クラス1			化管法由 来		
113	アクロレイン	難分解性	2	2			2						0.00092	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1			化管法由 来	
114	アセトン	良分解性	4	4		外		100	2	1		200	0.5	ATSDR							(-)	(-) 一部(+)	MLA(-)	(-)		ATSDR, SIDS, IRIS, EHC, ACGIH 一部CA(+)+だが大 勢は(-)+かつvivo小 核(-)	ACGIH:A4 EPA(1999):1			
115	メチルエチルケトン	良分解性 (類推審 議)	4	4		外		67.7	6	1		600	0.11								(-)	(-)	MLA(-), UDS(-), 形態変換 (-), 酵母 (+)	(-)		SIDS, ECETOC, EHC, ATSDR	EPA(1999): 1			
116	メチルイソブチルケトン	良分解性	2	外		外	2	19.9	2	1		200	0.099	ACGIH, DFG							(-)		MLA(±)	(-)		ACGIH, Patty, EHC, MOE, DFG, ECETOC	IARC:2B EPA(1999): 1 ACGIH:A3			
117	ギ酸	良分解性	3	3		外		4.06	2	1		200	0.02	DFG							(±)	(±)			Drosophil a, SLRL(+)	SIDS, JECFA, NTP, Patty, DFG SIDSでは、vivoの 陽性はph による 影響としている。 Patty では Ames(+)+について はph の影響として いる				
118	2－ブトキシエチル＝アセタート	難分解性 (デフォル ト)	2				2																				ACGIH:A3			
119	クロロ酢酸	良分解性	2	3		2							0.008	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1			化管法由 来	
122	硫酸ジメチル	良分解性 (類推審 議)	2			2	2														(+)	(+)			優性致死 (±), Drosophil a SLRL(+), 染色体異 常(+), マ ウス ポット(+)	IPCS, ECBリスク、 SIDS, DFG	IARC:2A EPA(1986):B2 NTP:R ACGIH:A3 産衛学会:2A EU:2			
124	1－ブタノール	良分解性 (類推審 議)	2	2		外		0.0119	2	1		200	0.00006	IPCS							(-)		SCE(±)	(-)		SIDS, IPCS, ACGIH, patty, NTP	EPA(1986):D			

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性						発がん性			備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考	
125	キシレン	良分解性	4	4		外		81	6	1		600	0.14							(-)	(-)		(-)		EHC, NTP, ECETOC	IARC:3 ACGIH:A4 EPA(1999): I			
126	クメン	良分解性	2				2																			IARC:2B EPA(1986): D CBD(1996)			
129	1, 3-ジイソシアナト(メチル)ベンゼン	難分解性 (デフォルト)	2	2	2	2	2	0.11	10	1		1000	0.00011	化管法	0.019	1	1	100	0.00019	NITE初期リス ク・有害性評 価						化管法変異原性 クラス1	IARC:2B NTP:R EU:3		化管法由 来
131	シクロヘキサノン	良分解性	4	4		4	2	50.4	6	1		600	0.084	SIDS							(-)	(+)		染色体異 常(+), Drosophil a SLRL(-), 優性致 死(-)	SIDS, ACGIH, NTO, DFG	IARC:3 ACGIH:A3			
132	3, 5, 5-トリメチルシクロヘキサ-2-エン-1-オン	難分解性	2				2																			EPA(1986):C ACGIH:A3 EU:3			
135	テトラヒドロフラン	良分解性	2				2																			EPA(2005):S ACGIH:A3			
136	N-メチル-2-ピロリドン	良分解性		3		外		13.3	6	1		600	0.022	SIDS							(-)		MLA(-), MN(-)	(-)	マウス優 性致死(-)				
140	アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(アルキルは炭素 数が10から14までの直鎖アルカンの基に限る。)	難分解性 (デフォルト)	4	4				40	2			200	0.2	PRED							(-)			NTP, PRED PREDIにvivo, vitro で変異原なしとの 記載。The toxicological data show that alkylbenzene sulfonates were not genotoxic in vitro or in vivo.)					
143	炭化ケイ素	難分解性 (デフォルト)	2				2																			ACGIH A2			
144	二塩化ニッケル(Ⅱ)	難分解性 (デフォルト)	1				1																			ACGIH A4 EU 1			
145	三酸化クロム(VI)	難分解性 (デフォルト)	1				1																			産衛 1 EU 1			
146	ビス(スルファミン酸)ニッケル(Ⅱ)	難分解性 (デフォルト)	1				1																			ACGIH A4 EU 1			
147	二塩化酸化ジルコニウム	難分解性	2			2																			化管法変異原性 クラス1				
148	硫酸ニッケル(Ⅱ)	難分解性 (デフォルト)	1				1																			EU 1 IARC1 ACGIH A4			

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性						発がん性			備考
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考	
149	3－クロロプロベン(別名塩化アリル)	良分解性	2	3			2						0.013	旧二監(化管 法)													IARC 3 EPA C(1986) EU 3		
150	2－イソプトキシエタノール	難分解性	2	2	4	外		15	6	10		6000	0.0025	厚労省(既存 点検)	150	10		1000	0.15	厚労省(既存 点検)	(－)	(－)				厚労省(既存点 検)			
152	2, 2′ , 2′ ′－ニトリロ三酢酸のナトリウム塩	難分解性 (デフォル ト)	2				2																				IARC 2B		
153	N－[3－(ジメチルアミノ)プロピル]ステアルアミド	難分解性 (デフォル ト)	3	3	3	外		50	6	10		6000	0.0083	厚労省(既存 点検)	50	10		1000	0.05	厚労省(既存 点検)	(－)	軽微な(+)				厚労省(既存点 検)			
155	p－トルイジン	難分解性	2	3			2						0.035	旧二監(化管 法)													EU 3		
156	クレゾール	良分解性	2		2	外									30	10	10	10000	0.003	NITE初期リス ク(m－体)	(－)	(+)	SCE(+) UDS(－)	(－)	SLDL(－), DL(－) SCE(－)	NITE初期リス ク	ACGIH A4		
161	アクリル酸重合物のナトリウム塩	難分解性 (デフォル ト)	3	3		外		0.05mg/m3 (MAK value)					0.02	DFG												DFG			
162	コールタール	難分解性 (デフォル ト)	1				1																				IARC 1 EPA A(1986) NTP K 産衛 1 EU 1		
163	コールタールピッチ	難分解性 (デフォル ト)	1				1																				IARC 1 ACGIH A1 産衛 1 EU 2		
173	N、N－ビス(2－ヒドロキシエチル)アルカンアミド(C＝8、 10、12、14、16、18、直鎖型)、(Z)－N、N－ビス(2－ ヒドロキシエチル)オクタデカ－9－エンアミド又は(9Z、12 Z)－N、N－ビス(2－ヒドロキシエチル)オクタデカ－9、1 2－ジエンアミド	難分解性 (デフォル ト)					2																				IARC 1 ACGIH A1 産衛 1 EU 2		

※1 変化物の二硫化炭素の有害性データが優先評価化学物質の指定根拠となっていることから、二硫化炭素の有害性情報を用いて評価 1 を実施している。

※2 事業者からの有害性情報の提出により、変異原性については実質的に懸念がないことが示されている。

※3 下線部については、事業者からの情報提供等を踏まえ、新たな有害性情報を用いて評価 1 を実施している。